

PMI倫理的意思決定の枠組み (EDMF)

はじめに

この「PMI倫理的意思決定の枠組み」(EDMF)文書では、倫理的ジレンマに直面したときに意思決定を行うプロセスを通じて、プロジェクトマネジメント専門家の個人をガイドするために使用できる手順を説明しています。倫理的ジレンマとは、2つ以上の矛盾する値がある、値がない、または他の値を上書きする状況です。従って、これらの状況は法律で定義されているものを超えています。倫理的ジレンマの場合、個人は選択を迫られ、決定を下す必要があります。

目的

この文書の目的は、倫理的ジレンマに直面するプロジェクトマネジメントの専門家に支援を提供して、PMI倫理・職務規定を補足することです。

このPMI EDMF文書に関するご意見やご質問は、PMI 倫理インサイト・チーム (EIT)に電子メールでお寄せください。 EthicsInsight@pmi.org.

背景とコンテキスト

PMIグローバル倫理チームの取り組みは、「倫理・職務規定」（以下「規定」）の認識を継続的に高めています。この枠組みは、メンバーの倫理的な意思決定能力と説明責任に焦点を当てることで、倫理認識レベルの上に構築されています。PMI EDMFは、倫理的行動を導く「規定」への手引きとして開発されました。

PMI EDMFチームは、数十の組織を対象に世界的規模で倫理的意思決定のベンチマー킹を実施しました。PMI EDMF草案に対するフィードバックには、2011年の北米リーダーシップ・インスティテュート・ミーティングでのPMIリーダー、2011年の北米グローバル会議でのPMIメンバー、様々なグローバルPMI倫理委員会のメンバー、PMI会員アンケートへの回答、そしてPMI理事会 (BoD) からのものが組み込まれています。（PMIボランティア

チーム：Michael O'Brochta、Giusi Meloni、Shobhna Raghupathy、Peter Pfeiffer、倫理コンサルタント、Marty Taylor、2011年）。この文書は、EDMFの有効性を高めるために最近の調査*に基づいて更新されました*。

PMI EDMFの使用方法

PMI EDMFは、PMIの個々のメンバーが使用するために、またPMIの資格保有者が使用するために開発されたものであり、意欲的に活用されるもので、強制されるものではありません。PMI EDMFは、倫理的な意思決定プロセス中のクリエイカル・シンキングのためのガイドとして使用することを目的としているため、問題の認識と評価から始まって決定およびアクションで終わる、ユーザーを刺激するための一連の質問およびサブ質問として表されます。PMI EDMFの使用を成功させるために重要なことは、PMI EDMFによって提起された質問に対する回答はユーザーの責任であるという認識を持つことです。また、PMI EDMFは、意思決定プロセスの最後に、つまり意思決定がまさに行われようとしているときに、重要な手順が実行されたかどうか、重要な配慮がなされたかどうかをじっくり振り返るためにも有効に活用できます。

PMI EDMFは論理的で直線的な一連の手順として表されますが、PMI EDMFのユーザーは、手順間を行ったり来たりするのに便利であることに気づくでしょう。PMI EDMFは完全に規定されているわけではなく、倫理的な意思決定に有用なありとあらゆる手順や質問を網羅しているわけでもないので、ユーザーは PMI EDMF から刺激を受けて、追加の手順や質問に挑戦することをお勧めします。

* Denney, V. P. & Merritt, D. M. (2020年9月/12月)。Improving ethical decision making: Through the lens of graduate project management students (倫理的意思決定の向上：プロジェクトマネジメント専攻大学院生の視点から)。Journal of Modern Project Management 8 (24), 138-141。<https://doi.org/10.19255/JMPM02411>

以下は、PMI EDMFの手順の説明です。

評価：

倫理的ジレンマについてすべての事実を把握していることを確認する

1

■ このジレンマは以下のものをどの程度遵守、整合、または合致していますか？

- 法律
- PMI 倫理・職務規定
- 雇用主の倫理行動規範
- クライアントの倫理行動規範
- あなたの倫理的価値観
- 周辺文化の倫理的価値観

法律を遵守していない場合は、法律顧問に相談します。上記の質問への回答が論証のため実質的な事実を提供する場合は、次のステップに進みます。確信が持てない場合は、より多くの事実を収集したり、信頼できる人に助言を求める必要があります。

代替案：

選択肢を検討する

2

■ 代替可能な選択肢を挙げる。

それぞれの可能性のある選択肢について、長所と短所を検討する。

代替案が実行可能な解決策となった場合は、次のステップに進み、決定候補を分析します。そうでない場合は、もっと多くの事実を収集して調査を完了させる必要があるかもしれません。

分析：

決定候補を特定し、その妥当性をテストする

3

■ 決定候補は、以下のものに対してどの程度プラスの影響を与えるですか？またはそれらに害が及ぶのを防ぎますか？

- | | |
|-------------------|----------------|
| • プロジェクトマネージャー | • 環境 |
| • PMIのスタッフやボランティア | • 異文化 |
| • クライアント | • 後世 |
| • 雇用主の組織 | • その他のステークホルダー |

■ この決定は、今から1年後に、名案になっていそうですか？

■ どの程度あなたは：

- 他から影響を受けずにこの決定を下すことができますか？
- この決定ができるほど冷静で落ち着いていますか？

考えられる影響が許容できる場合は、次のステップで倫理原則に照らして決定を確認します。そうでない場合は、別の決定候補をテストしたり、代替案や自分のケースを検討したりする時間を取ります。

適用：

決定候補に倫理原則を適用する

4

■ 決定候補はどの程度以下の価値観と合致していますか？

- | | |
|------|------|
| • 責任 | • 公正 |
| • 尊重 | • 正直 |

これらの価値観との合致が、疑惑を呼び起しあり、新たなジレンマを生み出しそうな場合は、自分の決定を再考し、事実や代替案、意味合いを検討する必要があるかもしれません。決定候補がこれらの価値観とも矛盾していないようなら、次のステップに進んで決定し、アクションに移します。

アクション：

決定する

5

■ 以下の実行にあなたはどの程度意思があり、能力がありますか？

- 自分の決定に責任を持つ
- 自分の決定を躊躇なく公開する

決定に問題がなければ、アクションに移ります。そうでなければ、これらの手順を遡って調べ、より良い解決策を見つけてください。